

2017 年度

都道府県立高校入試

問題分析 資料集 見本版

はじめに 入試分析の方法とその活用

■この資料では、高校入試の全設問を次の3種に分類します

- 1: サービス問題 (かんたん)
- 2: 標準問題 (ふつう)
- 3: 難問 (難しい)

それぞれの正答率の目安は教科によって異なりますが、このように分類することで、入試に向かう上での「作戦」を立てることが可能になるのです。

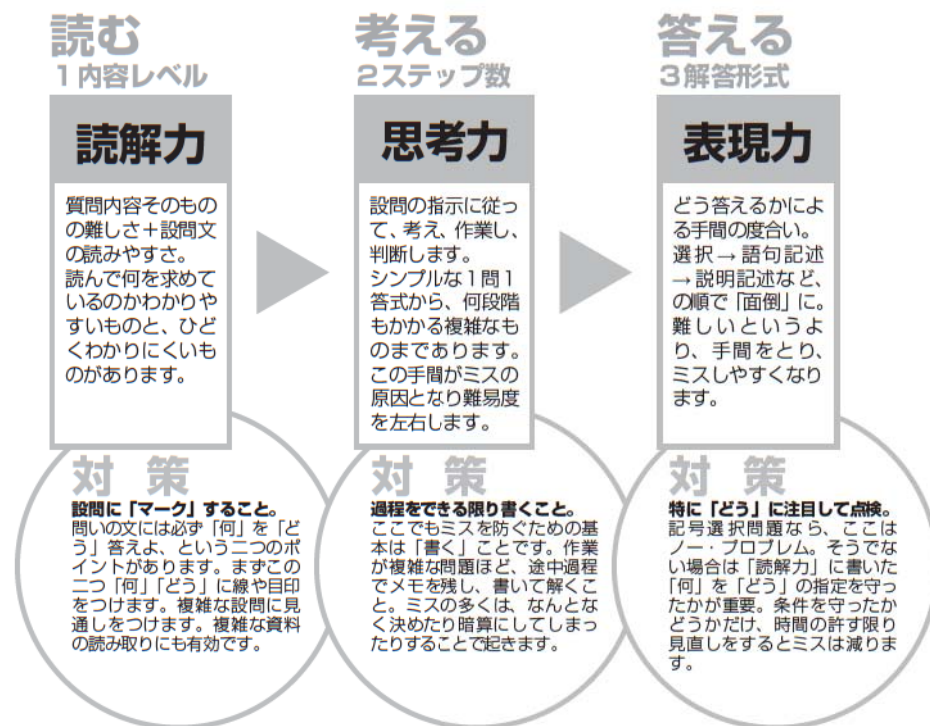
■問題が難しいかどうか、どうやって決まるの?

みなさんの中には「記号問題は簡単で、記述式は難しい」と何となく感じている人がいるでしょう。でも、必ずしもそうとはいえません。記号問題も、難しいテーマで手順を複雑にして、選択肢をまぎらわしくすると、かなりの難問になるのです。また、説明問題は特にきらわれますが、冷静に考えると、なにか書いてあれば部分的に得点できる可能性があるのも事実です(選択や語句の記述は誤ったら1点にもなりません)。設問の難易度決定について、主に次の3項目があります。

- 1 内容(語彙)レベル: 問われていること自体が難しいかどうか
- 2 ステップ数: 質問と解答の距離・解くのにかかる手間
解答の探しにくさ(主に英語・国語の読解問題)
- 3 解答形式レベル: 答えるのにかかる手間(選択は楽で、説明は手間がかかる)

以上は問題を解く過程そのものです。別の表現にすると、次のようになります。

1は、内容の読み取りですから読解力、2は、考え、作業したり判断しますから思考力、3は、解答を書くのですから、表現力を求めるといえるわけです。図で整理しましょう。



この資料では、主に先の3項目を組み合わせて問題の難易度を判定しています。詳しい方法は、各教科のはじめにまとめました。

■設問の難易度がわかるとどんないいことがあるの?

分析できるのは、もう「終わった」入試問題です。みなさんが受けるわけではありません。でも、高校入試は、ある程度似た傾向が何年も続きます。毎年傾向が変わるようでは、高校側の求める学力がいつも「ぶれて」いることになります。

ですから、入試問題の分析は、次の年のために大いに役立つのです。そして、入試問題がどのように作られているかを知ることは、2つの大きなメリットをみなさんにもたらしめます。

■入試分析の2つのメリット

メリット1: 不安になったり、動揺することが減る

そもそも「正体がよくわからない」ものほど不安や動揺をかきたてるもの。

入試というと、「何となく難しそう」「何から手をつけていいのか」「範囲は広いし、出題に慣れていないし」そんな不安を誰でも感じるはず。そこで、この分析をよく読んで、その正体をよく見きわめましょう。意外に難しくなかったり、難しくても「できなくてよい問題が」多数あったり、といったように、みなさんの不安を解消する情報がきっと手に入ります。

メリット2: 目標点・計画・時間配分など、具体的な戦術を組み立てられる

入試問題は単純に、やさしい問題から始まってだんだん難しくなっていくような順番で作られているとは限りません。

たとえば、中盤に、ひどく難しく手間のかかる問題があり、その直後にかんたんな問題がある……このような場合、人によっては難問を「とばす」ことが高得点に結びつく場合があります。また、難しく、手間がかかる割に配点が小さいため、「とばす」ほうがよい問題も存在します。

よくおぼえておいてください。

入試とは「限られた時間に可能な限り高い点を得る」競技といっているのです。

この「限られた時間」がポイントです。ペース配分を誤ると「時間切れ」で、取れるはずの問題を落としたり、難問に動揺して力を発揮できなかったり、などといった、学力以外の要素で合否が分かれる可能性が大きいのです。

だから、各入試問題の「正体」をよく見きわめ、みなさんそれぞれの得意不得意にあわせた「戦術」を組み立てることが大切です。受験生に必要なのは、志望校に「合格」するために必要な点をとることであって、最高点や満点をマークすることではないのですから。

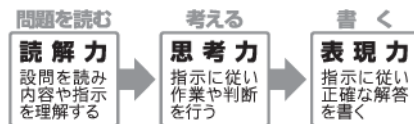
この資料が、みなさんの合格のための作戦立案・実行のサポート役になれば幸いです。



資料の見方・各項目の解説

この資料の特徴は、入試問題の全設問を、タイプ別に分類し、さらに難易度を数値化し、「サービス問題」「標準問題」「難問」の3ランクに分類していることです。左のページの表を見れば、この教科の問題が、どのような内容、レベルで作られているかがわかります。また、かんたんな学習アドバイスも書かれています。この下には、資料の作られ方と見方をまとめました。ぜひ活用してください。

■連番 設問の「通し番号」で、原則として点がつけられる単位を「1設問」として数えます。	■大設問 いわゆる「大問」・漢数字だったりローマ数字だったりしますが、この資料では原則、算用数字で表示。	■分野1 英語の問題のおおまかな分類（リスニング・対話文・長文、語彙など）。主に大設問単位で設定された分け方。	■小設問 「連番」に対応する番号です。	■分野2 分野1よりも具体的な分類・設問そのものの形式・内容を表示。	■分野3 用いられる素材（英文など）の内容がどのような分野に関するものか表示。
---	--	---	-------------------------------	--	---



問題難易度の判定方法です。問題を上の図のように、3ブロックに分けます。「読解：情報を入力」「思考：内容を考え判断」「表現：正しい解答を書く」です。読むべき内容は難しいが、選択式でしかも、解答がすぐ区別できるようになっていれば、主に「読解力」における難問です。反対に、わかりやすく書かれていても、意見と具体例をそろえて長い文章で表現しなければならないとなると、「表現力」の難問です。このような性格を数値化しています。そして、設問の「難易度」は、読解力・思考力・表現力の3つの数値を合計して判定します。この計算をかんたんに表したのが、下の「判定の公式」です。

連番	大設問	分野1	小設問	分野2	分野3	形式	種別	読解	思考	表現	難易度	判定	記点	正答率	内容	備考
1	1	リスニング	A	1 選択	学校生活	選択	読解	2	2	1	5	標	2	70.0	Emが振しているカバンがどんなものかを選択	イラスト
2	1	リスニング	B	条件英作文	学校生活	論述・小	表現	2	3	3	8	難	4	28.8	夏休みに宿題がなければ何をやるかその理由	分野横断(リスニング+英作文)
3	2	対話文	1	日本語訳	討論	説明・小	読解	2	2	2	6	標	2	45.8	救急車を呼ぶ理由を本文中から探し、3つのうち2つを日本語訳	分野横断(リスニング+英作文)
4	2	対話文	2	グラフ読み取り	討論	選択	読解	2	3	1	6	標	2	50.8	救急車で運ばれたら、入院を必要としない人の割合のグラフと英文を空欄の数値を選択	教科横断(英+数)
5	2	対話文	3	選択	討論	選択	読解	2	1	1	4	サ	2	82.0	救急車をどんな声に呼ぶべきか、大塚の意見として適切なものを選択	
6	3	長文	5	1条件英作文	新聞記事	論述・小	表現	1	2	3	6	標	2	58.4	Kumikoの夢が誰にかかたか、まだかかっていないか、本文から読み取って英文で解答	Yes/No Question
7	3	長文	5	2条件英作文	新聞記事	論述・小	表現	2	3	3	8	難	3	30.2	10の根拠を英文で解答・2文以上可	活用型・新傾向

■読解力レベル
問題に書かれた内容の難しさの表示です。内容が難しいほど数値が大きくなります。

- 常識レベル 中学生なら知っているべき
- 入試標準レベル 多くは過去に何度か経験がある
- 入試難問レベル 標準レベルの受験生がこぎずる
- 超高校入試レベル 特別な問題でない限り見ない
- 特別レベル ほとんどの中学生にとって意味不明

■思考力のレベル
読みとった情報について考え、判断する難易度です。設問と解答がそのまま対応する（発音の問題など）一問一答型は1、英文を訳して、文章中から解答を探すような場合は2、のように「手順」の長さを大まかに数値化したものです。大きいほど手間が多く、ミスする可能性が高まります。

- 一問一答 「この名を答えなさい」的な設問
- シンプル たとえば式にしてみると 訳して(1) + 解を選ぶ(1) = 2
- 手間がかかる たとえば式にしてみると 下線を引く(1) + 似た語を探す(1) + 書きかえて解答(1) = 3
- 複雑 3に対し「探しくい」「まぎらわしい」などの要素や手間が加わったもの
- 特別 さらに何段階もの手間をかけさせる設問
- 例外 大人でもミスするポイントが何箇所もある複雑ぼう大な難物

■表現力のレベル
解答形式による手間の度合いを表します。「形式」項目をそのまま数値化しました。

- 選択 いわゆる選択問題・語順整序のような選択肢がたいへん多くなるものは除外する場合も
- 語句 語句単位で記述する設問
- 計算 一般的な計算問題(数学)
- 計算記述 計算過程も含めた一定以上の記述(数学)
- 作図 図やグラフを作成する問題。
- 説明・小 与えられた素材や情報をもとに説明する問題・「小」は、解答の分量が小さいもの、構成力が不要でないもの
- 論述・小 意見を述べるもの・「小」は、解答の分量が小さいもの、「構成力」が必要でないもの
- 説明・大 与えられた素材や情報をもとに説明する問題・「大」は分量が多いまたは、段落レベルの構成力が必要になるもの
- 論述・大 意見を述べるもの・「大」は分量が多いまたは、段落レベルの構成力が必要になるもの
- 英作文 英作文(英語)

サービス問題

難易度 3~4 正答率の目安 70%~
誰でも解けるように用意されたものです。ここでミスをしたら致命的です。どうあっても確実にゲットしたい問題です。

標準問題

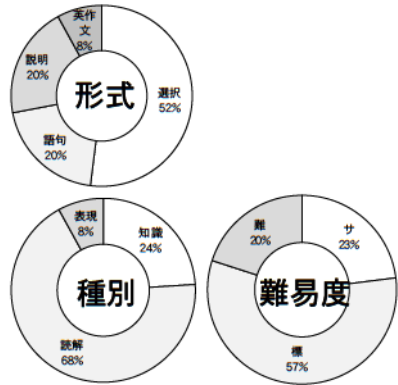
難易度 5~7 正答率の目安 40%~70%
入試の中心的な問題群です。これを確実にとれたかどうかは難問より重要で、合否にもっとも大きく影響します。

難問

難易度 8~10 正答率の目安 40%
多くの受験生が解けません。難問高校以外ではあまり影響はありません(もちろん、難問はここが勝負)。時にはパスする勇気も!
■難易度 11 以上は「超難問」です

判定の公式 読解力レベル + 思考力レベル + 表現力レベル = 難易度 → **判定**

設問のバランス



総評と特徴のまとめ

- ・読解重視型の入試問題
→きっちりと読む力をつけておく必要がある
- ・今年の読解問題は伊能忠敬に関する英文
→このような社会科学の英文は全国的に増加傾向
→類題を探して解き慣れておくとよい
- ・チラシの読み取り問題も全国的に増加傾向の活用型問題
→過去問・他の都道府県の類題での練習が必要
- ・知識問題はサービス問題の割合が高いので確実に取る必要がある
→単語を書かせる問題はスペルミスが出る可能性があるので注意すること
- ・解答形式は選択・語句・説明がバランスよく出題

傾向と対策

宮城県 2017年度 後期 英語

大問構成はリスニング・語彙&文法問題・長文2題・チラシ読み取りからの問題。問題の約7割が読解問題である。読み取りの力がある生徒ほど有利な入試であるといえよう。問題数は30問とやや多い。効率よく問題を解いていかなないと時間が無くなってしまふ。大問2の単語・文法の問題はあまり難易度が高くないので、時間をかけてはいけぬ。素早く解いてしまい、その後の長文問題に時間をかけるべきである。

大問3・4の長文問題も、すべてきっちり読まないで解けない問題はあまり多くない。並び替えや空所補充問題は、前後を読むだけで解ける問題がほとんどである。設問を先に読み、本文を後で読んで解くことができるように、その流れで解く練習をしておこう。

また、大問3は伊能忠敬に関する英文であり、社会科学的内容であった。このように内容の濃い文章を読ませる傾向は、全国的に増加している。社会科学だけに限らず、内容の濃いいろいろな英文を読めるようにしておこう。

大問5は活用色の強い、パンフレット読み取り+英作文問題である。この英作文はパンフレットを参考にして自分の意見を書かせる問題である。全国的にもこの傾向は増加している。過去問や他の都道府県の問題で練習しておこう。英作文は身近なテーマなので書きやすいだろう。英作文は減点法なので、内容よりもいかにミスをなくすかが大事である。確実に知っている単語・熟語を用いて、できるだけ単純な文にするのが効果的だ。

全設問の分析と難易度一覧

連番	大設問	分野1	小設問	分野2	分野3	形式	種別	読解	思考	表現	難易度	判定	配点	正答率	内容	備考
1	1	リスニング	1	1	内容把握	日常生活	選択	読解	2	1	1	4	サ	3	対話を聞き、その後の英語の質問に対する答えのイラストを選択	イラスト
2	1	リスニング	1	2	内容把握	買い物・道案内	選択	読解	2	2	1	5	標	3	対話を聞き、その後の英語の質問に対する答えの地図を選択	活用型(地図読取)
3	1	リスニング	2	1	内容把握	日常生活	選択	読解	2	1	1	4	サ	3	対話を聞き、最後の応答として適切な英文を選択	
4	1	リスニング	2	2	内容把握	日常生活	選択	読解	2	2	1	5	標	3	対話を聞き、最後の応答として適切な英文を選択	
5	1	リスニング	3	1	内容把握	学校生活	選択	読解	2	1	1	4	サ	3	まとまった対話を聞き、その後の英語の質問に対する答えとなる英文を選択	
6	1	リスニング	3	2	内容把握	学校生活	選択	読解	2	2	1	5	標	3	まとまった対話を聞き、その後の英語の質問に対する答えとなる英文を選択	
7	1	リスニング	3	3	内容把握	学校生活	選択	読解	3	2	1	6	標	3	まとまった対話を聞き、その後の英語の質問に対する答えとなる英文を選択	
8	2	語彙・イディオム	1	1	空所補充	日常生活	選択	知識	1	1	3	サ	2	会話が完成するように空所に入る英語を選択	take care of~	
9	2	文法問題	1	2	空所補充	学校生活	選択	知識	2	2	1	5	標	2	会話が完成するように空所に入る英語を選択	分詞の後置修飾
10	2	語彙・イディオム	2	1	空所補充	学校生活	語句	知識	1	1	2	4	サ	3	対話の流れに合うようにカッコ内に入る英語を記述	イニシャル有
11	2	文法問題	2	2	空所補充	日常生活	語句	知識	1	1	2	4	サ	3	対話の流れに合うようカッコ内に入る英単語を選択	イニシャル有・比較級
12	2	語彙・イディオム	2	3	空所補充	日常生活	語句	知識	2	1	2	5	標	3	対話の流れに合うようカッコ内に入る英単語を選択	イニシャル有・without ing
13	3	長文	1		空所補充	社会科学	語句	知識	1	1	2	4	サ	3	伊能忠敬に関する英文の空所に入る語を記述	現在完了形
14	3	長文	2		内容把握	社会科学	説明・小	読解	2	2	3	7	標	4	伊能忠敬に関する英文の下線部の理由を日本語で記述	
15	3	長文	3		並び替え	社会科学	語句	知識	2	2	2	6	標	4	伊能忠敬に関する英文のカッコ内の語句を並び替えて記述	it ~ for 人 to不定詞
16	3	長文	4		空所補充	社会科学	選択	読解	2	2	1	5	標	3	伊能忠敬に関する英文の空所に入る語の組み合わせを選択	
17	3	長文	5		空所補充	社会科学	選択	読解	2	2	1	5	標	3	伊能忠敬に関する英文の空所に入る語句を選択	
18	3	長文	6		英問英答	社会科学	説明・小	読解	2	3	3	8	難	4	伊能忠敬に関する英文の内容に合うように英語の質問に英語で記述	
19	3	長文	7		内容一致	社会科学	選択	読解	3	3	1	7	標	3	伊能忠敬に関する本文の内容に一致する英文を選択	
20	4	対話文	1		空所補充	日常生活	選択	読解	2	1	1	4	サ	3	対話文の空所に入る英文を選択	
21	4	対話文	2		言い換え・指示語	日常生活	説明・小	読解	2	2	3	7	標	4	下線部の具体的な内容を日本語で記述	
22	4	対話文	3		並び替え	日常生活	語句	知識	2	2	2	6	標	4	カッコ内の語句を並び替えて記述	makeの第5文型
23	4	対話文	4		空所補充	日常生活	選択	読解	2	2	1	5	標	3	本文中の空所に入る英語を選択	
24	4	対話文	5		その他	日常生活	選択	読解	3	3	1	7	標	3	本文中の空所に入る英文の順番として正しいものを選択	
25	4	対話文	6	1	英問英答	日常生活	説明・小	読解	3	2	3	8	難	4	本文に関する英語の質問に対して英語で記述	
26	4	対話文	6	2	英問英答	日常生活	説明・小	読解	3	2	3	8	難	4	本文に関する英語の質問に対して英語で記述	
27	4	対話文	7	1	内容一致	日常生活	選択	読解	3	3	1	7	標	3	本文の内容に合う英文を選択	順不同
28	4	対話文	7	2	内容一致	日常生活	選択	読解	3	3	1	7	標	3	本文の内容に合う英文を選択	順不同
29	5	その他	1		内容一致	体験	選択	読解	3	3	1	7	標	3	チラシの内容から読み取れるものとして正しい英文を選択	活用型(チラシ読取)
30	5	英作文	2		自由英作文	体験	英作文	表現	1	3	4	8	難	8	チラシを読み取り自分が参加したいと思う活動を選んで英語で記述	活用型(意見)・3文以上

資料の見方・各項目の解説

この資料の特徴は、入試問題の全設問を、タイプ別に分類し、さらに難易度を数値化し、「サービス問題」「標準問題」「難問」の3ランクに分類していることです。右のページの表を見れば、この教科の問題が、どのような内容、レベルで作られているかがわかります。また、かんたんな学習アドバイスも書かれています。この下には、資料の作られ方と見方をまとめました。ぜひ活用してください。

■連番

設問の「通し番号」で、原則として点がつけられる単位を「1設問」として数えます。

■大設問

いわゆる「大問」・漢数字だったりローマ数字だったりしますが、この資料では原則、算用数字で表示。

■分野1

数学の問題のおおまかな分類。代数・関数・図形・資料・その他、です。主に大設問単位で設定された分け方。

■小設問

「連番」に対応する番号です。

■分野2

分野1よりも具体的な分類・設問そのものの形式・内容を表示。

■形式

- 名称左の数値1~4は、下の表の「表現力」の難易度です。
- 1 選択** いわゆる選択問題。語順整理など選択が特に多いものは、選択であっても語句（語句記述）にする場合も。
 - 2 語句** 語句単位で記述する設問。
 - 2 計算** 一般的な計算問題（数学）。
 - 3 計算記述** 計算過程も含めた一定以上の記述（数学・理科）。
 - 3 作図** 図やグラフを作成する問題。
 - 3 説明・小** 与えられた素材や情報をもとに説明する問題。「小」は、解答の分量が小さいもの、構成力が不要でないもの。
 - 3 論述・小** 意見を述べるもの。「小」は、解答の分量が小さいもの、「構成力」が必要でないもの。
 - 4 説明・大** 与えられた素材や情報をもとに説明する問題。「大」は分量が多いまたは、段落レベルの構成力が必要になるもの。
 - 4 論述・大** 意見を述べるもの。「大」は分量が多いまたは、段落レベルの構成力が必要になるもの。
 - 4 証明** 証明の全過程（ほぼ全て）を記述するもの・穴埋めは2または3（数学）。

■種別

問題を「どのような頭脳の働きを求めているか」によって種類分けしています。

知識 一般的な解法の知識で解決可能な問題です。

読解 データを読み取ったり情報を分析するなどの読解的な作業が中心の問題です。

表現 分析した結果やデータを形式を変えて表現したり、解決法を考えて示したりするなど、自分で表現の方法を考えて構成する必要のあるタイプです。

問題を読む

考える

書く

読解力
設問を読み内容や指示を理解する

思考力
指示に従い作業や判断を行う

表現力
指示に従い正確な解答を書く

問題難易度の判定方法です。問題を上の図のように、3ブロックに分けます。「読解：情報を入力」「思考：内容を考え判断」「表現：正しい解答を書く」です。読むべき内容は難しいが、選択式でしかも、解答がすぐ区別できるようになっていれば、主に「読解力」における難問です。反対に、わかりやすく書かれていても、意見と具体例をそろえて長い文章で表現しなければならないとなると、「表現力」の難問です。このような性格を数値化しています。そして、設問の「難易度」は、読解力・思考力・表現力の3つの数値を合計して判定します。この計算をかんたんに表したのが、下の「判定の公式」です。

連番	大設問	分野1	小設問	分野2	形式	種別	読解力	思考力	表現力	難易度	判定	配点	正答率	内容	備考
1	1	代数	1	正負の数	計算	知識	1	1	1	3	サ	2	88.3	正負の四則計算	
2	2	図形	2	空間図形	選択	知識	1	2	1	4	サ	2	71.4	立方体の平行な辺	完全解答
3	2	資料	4	資料の活用	語句	知識	1	2	2	5	標	2	45.8	資料から最頻値を解答	
4	6	関数	1	2次関数	計算記述	読解	2	1	3	6	標	1	60.0	移動距離が何倍になるかの計算	情報処理
5	6	関数	2	2次関数	説明・小	表現	3	4	3	10	難	3	33.2	前の自動車に追突しないと判断できる理由を説明	新傾向問題 情報処理
6	8	図形		円	証明	知識	3	3	4	10	難	4	18.5	4点が同一直線上にあることの証明	

■読解力レベル

- 問題に書かれた内容の難しさの表示です。内容が難しいほど数値が大きくなります。
- 1 常識レベル** 中学生なら知っているべき
 - 2 入試標準レベル** 多くは過去に何度か経験がある
 - 3 入試難問レベル** 標準レベルの受験生がこぎずる
 - 4 超高校入試レベル** 特別な問題でない限り見ない
 - 5 特別レベル** ほとんどの中学生にとって意味不明

■思考力のレベル

- 読みとった情報について考え、判断する難易度です。設問と解答がそのまま対応する（単純な計算問題など）一問一答型は1、立式して計算したり、条件を探すような場合は2……のように「手順」の長さを大まかに数値化したものです。大きいほど手間が多く、ミスする可能性が高まります。
- 1 一問一答** 「単純な計算」的な設問
 - 2 シンプル** たとえば式にしてみると 立式 (1) + 解を求める (1) = 2
 - 3 手間がかかる** たとえば式にしてみると 立式 (1) + 海を求める (1) + 解をもとに計算し解答 (1) = 3
 - 4 複雑** 3に対し「作業が複雑」「まぎらわしい」などの要素や手間が加わったもの
 - 5 特別** さらに何段階もの手間をかけた設問
 - 6 例外** 大人でもミスするポイントが何箇所もある複雑ぼう大な難物

■表現力のレベル

- 解答形式による手間の度合いを表します。「形式」項目をそのまま数値化しました。
- 1 選択** いわゆる選択問題・語順整理のような選択肢がたいへん多くなるものは除外する場合も
 - 2 語句** 語句単位で記述する設問
 - 2 計算** 一般的な計算問題（数学）
 - 3 計算記述** 計算過程も含めた一定以上の記述（数学・理科）
 - 3 作図** 図やグラフを作成する問題。
 - 3 説明・小** 与えられた素材や情報をもとに説明する問題。「小」は、解答の分量が小さいもの、構成力が不要でないもの
 - 3 論述・小** 意見を述べるもの。「小」は、解答の分量が小さいもの、「構成力」が必要でないもの
 - 4 説明・大** 与えられた素材や情報をもとに説明する問題。「大」は分量が多いまたは、段落レベルの構成力が必要になるもの
 - 4 論述・大** 意見を述べるもの。「大」は分量が多いまたは、段落レベルの構成力が必要になるもの
 - 4 証明** 証明の全過程（ほぼ全て）を記述するもの・穴埋めは2または3（数学）

サービス問題

難易度 3~4 正答率の目安 70%~
誰でも解けるように用意されたものです。こ
れをミスしたら致命的です。どうあっても
確実にゲットしたい問題です。

標準問題

難易度 5~7 正答率の目安 40%~70%
入試の中心的な問題群です。これを確実にと
れたかどうかは難問より重要で、合否にもつ
とも大きく影響します。

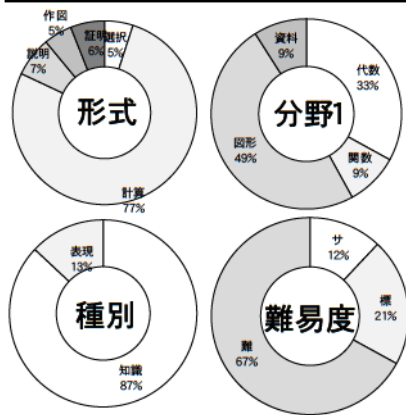
難問

難易度 8~10 正答率の目安 40%
多くの受験生が解けません。難問高校以外
ではあまり影響はありません（もちろん、難問
はここが勝負）。
時にはパスする勇気も！
■難易度 11 以上は「超難問」です

判定の公式

読解力レベル + 思考力レベル + 表現力レベル = 難易度 → 判定

設問のバランス



総評と特徴のまとめ

- ・数学の原理理解を求める問題が出題
→パターンにはまらない説明や公式を導く問題
→公式や定理の成り立ちや意味を考える訓練を
- ・問題の6割が図形、ほとんどが難問
→必要な補助線や等しい印をかきこむ力がある
- ・空間図形は高いレベルのイメージが必要
→必要な平面をとりだす力を要求
- ・後半は難問のみ。前半でミスは許されない
→計算のスピードと精度を上げる訓練
→解く順番・時間配分を意識した練習を

傾向と対策

埼玉県 2017年度 選択 数学

全体の6割近くが図形に関する問題で、ほとんどが難問である。大設問3では空間図形に隠れている相似の証明問題が出題された。また、関数の問題もすべて図形に関する内容を問われる。一方で計算問題は2問しかなく、しかも複雑でミスを起こしやすい。この問題を落とすと厳しいので、大設問3に進む前に計算問題の確認をしよう。

最大の特徴は、大設問1(7)(8)にある問題である。これは、「2次方程式の解の公式を導く」「2つの素数の間の数が6の倍数であることの説明」という、従来のパターンにはない問題である。数学の原理をきちんと理解し、問われていることをていねいに読み取り、言葉で表現することを要求する。このパターン問題には、「解の公式はこう」「文字の説明はこう」という暗記はまったく通用しない。「どのようにこの公式はできたのか」「数とは何か」というところから掘り下げて訓練する必要がある。来年度以降もこういったタイプが出題される可能性は十分あるので、公式や定理の成り立ちや意味などを意識した勉強を心がけよう。

ていねいさが大事である。例えば「等しい角」「等しい辺」を図に一つずつていねいにチェックすること。整理してさらに等しい辺を見つけ出していくこと。特別なテクニックがあるわけではない。集中を切らさずに「ていねいに」問題に向き合えるかを要求している。設問ごとに図が用意されているので、常に「いまだこの部分を考えているのか」を意識しながらじっくり解こう。

全設問の分析と難易度一覧

連番	大設問	分野1	小設問	分野2	形式	種別	読解	思考	表現	難易度	判定	配点	正答率	内容	備考
1	1	代数	1	文字式	計算	知識	1	1	2	4	サ	4		分数式の減法	
2	1	代数	2	文字式の値	計算	知識	2	2	2	6	標	4		文字式の値を計算	因数分解を利用可能
3	1	代数	3	連立方程式	計算	知識	1	1	2	4	サ	4		「A-B-C型」の連立方程式の解法	
4	1	関数	4	2次関数	計算記述	知識	2	2	3	7	標	4		yの変域が指定の範囲になるときのaの値を選択	手間・完全解答
5	1	資料	5	確率	計算記述	知識	2	2	3	7	標	4		3つの花を花だんに植える方法が何通りあるか計算	少し難しい
6	1	図形	6	相似	計算記述	知識	2	3	3	8	難	4		相似の性質を利用して線分の長さを計算	
7	1	代数	7	1 2次方程式	計算	知識	1	1	2	4	サ	4		平方根を利用した2次方程式の解法	
8	1	代数	7	2 2次方程式	計算記述	知識	2	3	3	8	難	6		2次方程式の解の公式を導く	根本原理理解
9	1	代数	8	1 因数分解	計算記述	知識	1	1	3	5	標	4		差が2である2つの素数の組をすべて記述	完全解答
10	1	代数	8	2 文字による説明	説明・小	表現	3	3	3	9	難	7		差が2である2つの素数の間にある数が6の倍数である理由を説明	非パターン
11	2	図形	1	平面図形	作図	知識	2	3	3	8	難	5		直線上にあって2点と作る角が90度になる点を作図	直径の円周角の性質を利用・やや難
12	2	資料	2	資料の活用	選択	知識	2	3	1	6	標	5		最頻値・中央値・平均値の情報から適切なヒストグラムを選択	手間がかかる
13	2	図形	3	平面図形	計算記述	知識	2	3	3	8	難	5		三平方の定理を利用してかげをつけた部分の面積を計算	
14	2	図形	4	三平方の定理	計算記述	知識	2	3	3	8	難	5		三平方の定理などを利用して正四角柱の高さを展開図から計算	少し難しい
15	3	図形	1	相似	証明	表現	2	3	4	9	難	6		立方体の断面による2つの三角形が相似であることを証明	証明自体は難しくない
16	3	図形	2	空間図形	計算記述	知識	2	3	3	8	難	5		三平方の定理と相似を利用して線分の長さを計算	
17	3	図形	3	空間図形	計算記述	知識	3	3	3	9	難	6		4点を頂点とする立体の体積を計算	図形のイメージがしにくい
18	4	関数	1	2次関数	計算記述	知識	3	3	3	9	難	5		座標をもとに2次関数の比例定数を計算	相似・xの増加量とyの増加量
19	4	図形	2	1 2次関数	計算記述	知識	3	4	3	10	難	6		面積の比が4:1になる点Pのx座標を計算	
20	4	図形	2	2 2次関数	計算記述	知識	3	4	3	10	難	7		三角形を辺BEを軸にして回転させてできる立体の体積を計算	空間図形との融合・途中式も

資料の見方・各項目の解説

この資料の特徴は、入試問題の全設問を、タイプ別に分類し、さらに難易度を数値化し、「サービス問題」「標準問題」「難問」の3ランクに分類していることです。右のページの表を見れば、この教科の問題が、どのような内容、レベルで作られているかがわかります。また、かんたんな学習アドバイスも書かれています。この下には、資料の作られ方と見方をまとめました。ぜひ活用してください。

■連番

設問の「通し番号」で、原則として点がつけられる単位を「1設問」として数えます。

■大設問

いわゆる「大問」・漢数字だったりローマ数字だったりしますが、この資料では原則、算用数字で表示。

■分野1

国語の問題のおおまかな分類・主に大設問単位の設定された分け方。

■小設問

「連番」に対応する番号です。

■分野2

分野1よりも具体的な分類・設問そのものの形式・内容を表示。

■形式

- 名称左の数値1~4は、下の表の「表現力」の難易度です。
- 1 選択** いわゆる選択問題。語順整理など選択が特に多いものは、選択であっても語句（語句記述）にする場合も。
 - 2 語句** 語句単位で記述する設問。
 - 3 計算記述** 計算過程も含めた一定以上の記述（数学・理科）。
 - 3 作図** 図やグラフを作成する問題。
 - 3 説明・小** 与えられた素材や情報をもとに説明する問題。「小」は、解答の分量が小さいもの、構成力が不要でないもの。
 - 3 論述・小** 意見を述べるもの。「小」は、解答の分量が小さいもの、「構成力」が必要でないもの。
 - 4 説明・大** 与えられた素材や情報をもとに説明する問題。「大」は分量が多いまたは、段落レベルの構成力が必要になるもの。
 - 4 論述・大** 意見を述べるもの。「大」は分量が多いまたは、段落レベルの構成力が必要になるもの。
 - 4 証明** 証明の全過程（ほぼ全て）を記述するもの・穴埋めは2または3（数学）。

■種別

- 問題を「どのような頭脳の働きを求めるか」によって種類分けしています。
- 知識** 漢字や語彙、文法知識でスタートに解答できる設問です。
- 読解** いわゆる読解問題です。文章の流れを追って読み、内容について判断したり書き変えたり、まとめたりします。
- 表現** 作文などのように能動的に表現したり、表現をより効果的にするための工夫について考えたりします。

問題を読む

考える

書く

読解力
設問を読み内容や指示を理解する

思考力
指示に従い作業や判断を行う

表現力
指示に従い正確な解答を書く

問題難易度の判定方法です。問題を上の図のように、3ブロックに分けます。「読解：情報を入力」「思考：内容を考え判断」「表現：正しい解答を書く」です。読むべき内容は難しいが、選択式でしかも、解答がすぐ区別できるようになっていれば、主に「読解力」における難問です。反対に、わかりやすく書かれていても、意見と具体例をそろえて長い文章で表現しなければならないとなると、「表現力」の難問です。このような性格を数値化しています。そして、設問の「難易度」は、読解力・思考力・表現力の3つの数値を合計して判定します。この計算をかんたんに表したのが、下の「判定の公式」です。

連番	大設問	分野1	少設問	分野2	形式	種別	読解力	思考力	表現力	難易度	判定	配点	正答率	内容	備考	作者	作品名
1	1	説明的文章	1	漢字	語句	知識	1	1	2	4	サ	2	83.3	漢字・書き2問(真なる・減ずる)	減らす 難	外山道比古	古典論
2	1	説明的文章	2	内容把握	選択	読解	1	1	1	3	サ	2	75.8	接続語を選択して空欄補充		外山道比古	古典論
3	1	説明的文章	3	内容把握	語句	読解	2	2	1	5	標	2	60.2	指定段落から空欄に連する語を5字で抜き書き・空欄補充		外山道比古	古典論
4	1	説明的文章	4	内容把握	説明・小	読解	1	3	3	7	標	4	48.6	文章を形式化したもの(空欄補充(2つ)+図の取崩す)25字以内で記述	3問完答	外山道比古	古典論
5	2	作文・表現	1	内容把握	選択	読解	1	1	1	3	サ	2	77.5	該当部分の発言が話し合いの中で果たす役割を選択			
6	2	作文・表現	2	作文	表現	表現	2	2	4	8	難	9	26.2	「読書しない理由」を自由に選択し「読書をする理由」を200字以内で記述	配点は全国最大級		

■読解力レベル

- 問題に書かれた内容の難しさの表示です。内容が難しいほど数値が大きくなります。
- 1 常識レベル** 中学生なら知っているべき
 - 2 入試標準レベル** 多くは過去に何度か経験がある
 - 3 入試難問レベル** 標準レベルの受験生がこぎずる
 - 4 超高校入試レベル** 特別な問題でない限り見ない
 - 5 特別レベル** ほとんどの中学生にとって意味不明

■思考力のレベル

- 読みとった情報について考え、判断する難易度です。設問と解答がそのまま対応する(漢字問題など)一問一答型は1、傍線部の前後から探したりする場合は2……のように「手順」の長さを大まかに数値化したものです。大きいほど手間が多く、ミスする可能性が高まります。
- 1 一問一答** 「単純な漢字」的な設問
 - 2 シンプル** たとえば式にしてみると主張を確認(1)+選ぶ(1)=2
 - 3 手間がかかる** たとえば式にしてみると主張を確認(1)+文章から探す(1)+加工して字数などをあわせる(1)=3
 - 4 複雑** 3に対し「探しにくい」「作業が複雑」などの要素や手間が加わったもの
 - 5 特別** さらに何段階もの手間をかけさせる設問
 - 6 例外** 大人でもミスするポイントが何箇所もある複雑ぼう大な難物

■表現力のレベル

- 解答形式による手間の度合いを表します。「形式」項目をそのまま数値化しました。
- 1 選択** いわゆる選択問題・語順整理のような選択肢がたいへん多くなるものは除外する場合も
 - 2 語句** 語句単位で記述する設問
 - 2 計算** 一般的な計算問題(数学)
 - 3 計算記述** 計算過程も含めた一定以上の記述(数学・理科)
 - 3 作図** 図やグラフを作成する問題。
 - 3 説明・小** 与えられた素材や情報をもとに説明する問題。「小」は、解答の分量が小さいもの、構成力が不要でないもの
 - 3 論述・小** 意見を述べるもの。「小」は、解答の分量が小さいもの、「構成力」が必要でないもの
 - 4 説明・大** 与えられた素材や情報をもとに説明する問題。「大」は分量が多いまたは、段落レベルの構成力が必要になるもの
 - 4 論述・大** 意見を述べるもの。「大」は分量が多いまたは、段落レベルの構成力が必要になるもの
 - 4 証明** 証明の全過程(ほぼ全て)を記述するもの・穴埋めは2または3(数学)

サービス問題

難易度 3~4 正答率の目安 70%~
誰でも解けるように用意されたものです。ここでミスをしたら致命的です。どうあっても確実にゲットしたい問題です。
ミスは許されません!

標準問題

難易度 5~7 正答率の目安 40%~70%
入試の中心的な問題群です。これを確実にとれたかどうかは難問より重要で、合否にもっとも大きく影響します。
ほとんどの受験生の勝負ポイント!

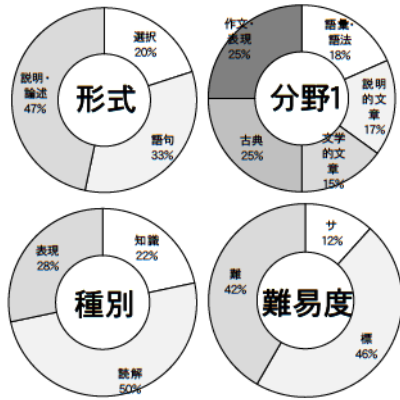
難問

難易度 8~10 正答率の目安 40%
多くの受験生が解けません。難問高校以外ではあまり影響はありません(もちろん、難問はここが勝負)。時にはパスする勇気も!
■難易度 11 以上は「超難問」です

判定の公式

$$\text{読解力レベル} + \text{思考力レベル} + \text{表現力レベル} = \text{難易度} \rightarrow \text{判定}$$

設問のバランス



総評と特徴のまとめ

・大設問4で活用型の新傾向問題登場——プレゼンテーションにおける効果的な映像資料の使い方を考え説明させる。配点60点中15点の高配点
→ここでの得点で差がつく、対策必要

・難化——昨年みられた空欄補充の記述問題が激減、解答を文章として完成させねばならないことが難しくなった一因

・古典に新傾向登場——指定部分の朗読方法を、本文の展開・内容を踏まえて、理由とともに説明させる
→解答のイメージがわきにくく、古文の読解+思考+表現とステップ数が多く、難しい

傾向と対策

書かせる入試+設問数は最小+難問増加(42%)。時間をかけてじっくり考えよというメッセージが読み取れる。「空欄補充」の記述問題が激減し、空欄の前後の文をヒントとして、本文中の答えに関係する部分を探すことができなくなった。そして解答の全文を自分で完成させることに。これが難化の一因。

大設問4は新傾向の論述問題。題材が活用的。プレゼンテーション場面での効果的な動画の活用方法を説明させる。まず、プレゼンテーションの目的、対象、内容をよく読み理解することが求められる。提示されている「進行ノート」の情報(縦書き、横書き、文字は大小様々)をすばやく捉えることに慣れていないと難。次に、A・Bどちらのタイミングで動画を流すのがよいかを判断。ここでは「聞く側」の視点に立つ必要あり。最後は、わかりやすい文章にする。「コミュニケーション手段としての国語」という視点からの新傾向問題。じつは、この問題、文科省発表、大学入試改革に伴う「高校生基礎テスト(仮称)」の例題に酷似。時代の先端を行く問題を採用したとも言える。この傾向は今後継続される可能性が高い。活用型の問題を他県の入試問題や、問題集などで練習しておくことを勧める。この力は、入試だけでなく一生ものの宝となるはず。

古典でも新傾向問題。古文の朗読方法を説明。現代語訳があまり付いていない。まず古文の読解=内容をとらえることが難。その上で、指定部の役割、登場人物の心情を考え、それを表す効果的な朗読方法を説明する。何段階ものステップあり。あまり見かけない問題なので「どのように解答を書けばよいのか」に戸惑う。読解+思考+表現の全てが問われている。

プレゼンテーション問題(大設問4)でも、古文の朗読説明でも共通する対策を記す。色々なことに対し「良くするためにはどうすればよいか」考える。理由とともに説明文を書く。だれかに読んでもらい説明がわかりやすいかアドバイスをもらう。他者を意識した説明ができることを目指そう。

福岡県 2017年度 一般 国語

全設問の分析と難易度一覧

連番	大設問	分野1	小説問	分野2	形式	種別	読解	思考	表現	難易度	判定	配点	正答率	内容	備考	作者	作品名
1	1	語彙・語法	—	① 漢字	語句	知識	2	1	2	5	標	2		漢字:書き(備わって)	送り仮名も書く	山鳥重一	「わかる」とはどういうことか
2	1	語彙・語法	—	② 漢字	語句	知識	1	1	2	4	サ	2		漢字:書き(周辺)		山鳥重一	「わかる」とはどういうことか
3	1	説明的文章	二	内容把握	語句	読解	1	1	2	4	サ	2		傍線部の指示語を含む内容を7字で書き抜き		山鳥重一	「わかる」とはどういうことか
4	1	語彙・語法	三	語句知識	選択	知識	2	1	1	4	サ	1		文法:「しばらく」と同じ品詞を選択		山鳥重一	「わかる」とはどういうことか
5	1	説明的文章	四	内容把握	説明・小	読解	2	2	3	7	標	3		傍線部の指示語を含む内容を35~45字で記述		山鳥重一	「わかる」とはどういうことか
6	1	説明的文章	五	内容把握	説明・小	読解	2	3	3	8	難	3		傍線部の「検討づけ」を25~35字で指定語句を使って記述		山鳥重一	「わかる」とはどういうことか
7	1	説明的文章	六	内容把握	選択	読解	3	2	1	6	標	2		本文の内容や論理の展開を説明したものを選択		山鳥重一	「わかる」とはどういうことか
8	2	古典	一	語句知識	語句	知識	2	1	2	5	標	2		漢文:書き下し文に従って返り点を打つ			列子
9	2	古典	二	内容把握	語句	読解	2	2	2	6	標	2		傍線部の主語を記述			列子
10	2	古典	三	内容把握	選択	読解	2	2	1	5	標	2		傍線部「速し」とあるが、何と何が速いのか選択			列子
11	2	古典	四	X 内容把握	語句	読解	2	2	2	6	標	2		本文を表にまとめたものの空欄に入る内容を10~15字で記述・空欄補充			列子
12	2	古典	四	Y 内容把握	語句	読解	2	2	2	6	標	2		本文を表にまとめたものの空欄に入る内容を20~30字で記述・空欄補充			列子
13	2	古典	五	内容把握	説明・小	読解	2	3	3	8	難	3		登場人物が「何」を笑ったのか35~45字で説明			列子
14	2	古典	六	内容把握	説明・小	表現	3	4	3	10	難	2		破線部の朗読の仕方、本文の展開や内容を踏まえ、そう読む理由とともに25~35字で説明 古文の朗読方法説明問題は新傾向			列子
15	3	語彙・語法	—	① 漢字	語句	知識	2	1	2	5	標	2		漢字:読み(指摘)		三浦綾子	千利休とその妻たち
16	3	語彙・語法	—	② 漢字	語句	知識	2	1	2	5	標	2		漢字:読み(直ちに)		三浦綾子	千利休とその妻たち
17	3	語彙・語法	二	語句知識	選択	知識	2	1	1	4	サ	2		書写:「益」を楷書で書いた場合と同じ総画数になる行書の漢字を選択		三浦綾子	千利休とその妻たち
18	3	文学的文章	三	内容把握	語句	読解	2	2	2	6	標	2		傍線部の内容を「こと」に続く形で16字で探し初めと終わりの3字をそれぞれ書き抜き 人物の名前と状況に馴染みがなく難		三浦綾子	千利休とその妻たち
19	3	文学的文章	四	理由と結果	説明・小	読解	2	3	3	8	難	2		傍線部のように「当惑した」理由を25~35字で記述	人物の名前と状況に馴染みがなく難	三浦綾子	千利休とその妻たち
20	3	文学的文章	五	内容把握	選択	読解	2	2	1	5	標	2		破線部が2度繰り返し返されていることで得られる表現の効果を選択	人物の名前と状況に馴染みがなく難	三浦綾子	千利休とその妻たち
21	3	文学的文章	六	内容把握	選択	読解	2	2	1	5	標	3		傍線部の「驚嘆した」内容を選択	人物の名前と状況に馴染みがなく難	三浦綾子	千利休とその妻たち
22	4	作文・表現		表現	論述・大	表現	3	3	4	10	難	15		プレゼンテーション時、動画を流すタイミングはA・Bどちらがよいか10~12行で理由もつけ論述 「基礎テスト」を意識した活用型・新傾向			

資料の見方・各項目の解説

この資料の特徴は、入試問題の全設問を、タイプ別に分類し、さらに難易度を数値化し、「サービス問題」「標準問題」「難問」の3ランクに分類していることです。右のページの表を見れば、この教科の問題が、どのような内容、レベルで作られているかがわかります。また、かんたんな学習アドバイスも書かれています。この下には、資料の作られ方と見方をまとめました。ぜひ活用してください。

■連番

設問の「通し番号」で、原則として点がつけられる単位を「1設問」として数えます。

■大設問

いわゆる「大問」・漢数字だったりローマ数字だったりしますが、この資料では原則、算用数字で表示。

■分野1

理科の4分野（物理・化学・生物・地学）のおおまかな分類・主に大設問単位で設定された分け方。

■小設問

「連番」に対応する番号です。

■分野2

分野1よりも具体的な分類・設問そのものの形式・内容を表示。

■形式

- 名称左の数値1~4は、下の表の「表現力」の難易度です。
- 1 選択** いわゆる選択問題。語順整理など選択が特に多いものは、選択であっても語句（語句記述）にする場合も。
 - 2 語句** 語句単位で記述する設問。
 - 2 計算** 一般的な計算問題（数学）。
 - 3 計算記述** 計算過程も含めた一定以上の記述（数学・理科）。
 - 3 作図** 図やグラフを作成する問題。
 - 3 説明・小** 与えられた素材や情報をもとに説明する問題。「小」は、解答の分量が小さいもの、構成力が不要でないもの。
 - 3 論述・小** 意見を述べるもの。「小」は、解答の分量が小さいもの、「構成力」が必要でないもの。
 - 4 説明・大** 与えられた素材や情報をもとに説明する問題。「大」は分量が多いまたは、段落レベルの構成力が必要になるもの。
 - 4 論述・大** 意見を述べるもの。「大」は分量が多いまたは、段落レベルの構成力が必要になるもの。
 - 4 証明** 証明の全過程（ほぼ全て）を記述するもの・穴埋めは2または3（数学）。

■種別

問題を「どのような頭脳の働きを求めるか」によって種類分けしています。

知識 語句などの知識があればストレートに解答できる設問です。

情報 与えられた資料などの情報から判断し回答すれば良い問題です。一般常識以上の知識が不要なタイプです。

知識・情報 知識を活用しつつ、情報処理や判断を行うタイプです。教科横断的な問題になる場合もあります。

問題を読む

読解力
設問を読み内容や指示を理解する

考える

思考力
指示に従い作業や判断を行う

書く

表現力
指示に従い正確な解答を書く

問題難易度の判定方法です。問題を上の図のように、3ブロックに分けます。「読解：情報を入力」「思考：内容を考え判断」「表現：正しい解答を書く」です。読むべき内容は難しいが、選択式でしかも、解答がすぐ区別できるようになれば、主に「読解力」における難問です。反対に、わかりやすく書かれていても、意見と具体例をそろえて長い文章で表現しなければならないとなると、「表現力」の難問です。このような性格を数値化しています。そして、設問の「難易度」は、読解力・思考力・表現力の3つの数値を合計して判定します。この計算をかんたんに表したのが、下の「判定の公式」です。

連番	大設問	分野1	小設問	分野2	形式	種別	読解力	思考力	表現力	難易度	判定	配点	正答率	内容	備考
1	1	化学	1	水溶液の性質	計算記述	知識	1	2	3	6	標	2	48.2	濃度から必要な食塩と水の量を計算	
2	1	化学	2	化学変化と熱	語句	知識	1	1	2	4	サ	2	77.5	化学カロの反応について「熱を放出する化学変化の名称」を記述し「熱を放出する化学変化」を選択	完全解答
3	1	化学	3 1	水溶液の性質	説明・小	情報	3	3	3	9	難	3	25.8	グラフから食塩水の濃度と化学カロの最高濃度の関係についてわかることを説明	資料読み取り
4	1	化学	3 2	化学変化と熱	選択	情報	3	1	1	5	標	2	50.5	会経文にある「25%の濃度が一番化学変化を続ける理由」の空欄を補充・グラフを見て放出する熱の量の比較に着目して記述	資料読み取り
5	1	化学	4 1	化合と分解	語句	知識	2	1	2	5	標	2	61.1	化学カロを袋に閉鎖して化学変化させたときなくなる物質の化学式を記述	
6	1	化学	4 2	化学変化と熱	説明・小	知識・情報	3	3	3	9	難	2	32.0	袋に閉鎖した化学カロがまだ使えなくなった後、袋を開けずに確かめるための実験手順の「方法」「結果」「考察」の空欄を補充	新傾向問題 全国学力調査型

■読解力レベル

- 問題に書かれた内容の難しさの表示です。内容が難しいほど数値が大きくなります。
- 1 常識レベル** 中学生なら知っているべき
 - 2 入試標準レベル** 多くは過去に何度か経験がある
 - 3 入試難問レベル** 標準レベルの受験生がこぎずる
 - 4 超高校入試レベル** 特別な問題でない限り見ない
 - 5 特別レベル** ほとんどの中学生にとって意味不明

■思考力のレベル

- 読みとった情報について考え、判断する難易度です。設問と解答がそのまま対応する（単純な語句など）一問一答型は1、計算して解答を探したりする場合は2……のように「手順」の長さをだまかに数値化したものです。大きいほど手間が多く、ミスする可能性が高まります。
- 1 一問一答** 「単純な漢字」的な設問
 - 2 シンプル** たとえば式にしてみると
計算 (1) + 資料から判断 (1) = 2
 - 3 手間がかかる** たとえば式にしてみると
立式 (1) + 計算 (1) + 資料から判断 (1) = 3
 - 4 複雑** 3に対し「まぎらわしい」「作業が複雑」などの要素や手間が加わったもの
 - 5 特別** さらに何段階もの手間をかけさせる設問
 - 6 例外** 大人でもミスするポイントが何箇所もある複雑ぼう大な難物

■表現力のレベル

- 解答形式による手間の度合いを表します。「形式」項目をそのまま数値化しました。
- 1 選択** いわゆる選択問題・語順整理のような選択肢がたいへん多くなるものは除外する場合も
 - 2 語句** 語句単位で記述する設問
 - 2 計算** 一般的な計算問題（数学）
 - 3 計算記述** 計算過程も含めた一定以上の記述（数学・理科）
 - 3 作図** 図やグラフを作成する問題。
 - 3 説明・小** 与えられた素材や情報をもとに説明する問題。「小」は、解答の分量が小さいもの、構成力が不要でないもの
 - 3 論述・小** 意見を述べるもの。「小」は、解答の分量が小さいもの、「構成力」が必要でないもの
 - 4 説明・大** 与えられた素材や情報をもとに説明する問題。「大」は分量が多いまたは、段落レベルの構成力が必要になるもの
 - 4 論述・大** 意見を述べるもの。「大」は分量が多いまたは、段落レベルの構成力が必要になるもの
 - 4 証明** 証明の全過程（ほぼ全て）を記述するもの・穴埋めは2または3（数学）

サービス問題

難易度 3~4 正答率の目安 70%~
誰でも解けるように用意されたものです。ここでミスをしたら致命的です。どうあっても確実にゲットしたい問題です。

標準問題

難易度 5~7 正答率の目安 40%~70%
入試の中心的な問題群です。これを確実にとれたかどうかは難問より重要で、合否にもっとも大きく影響します。

ほとんどの受験生の勝負ポイント！

難問

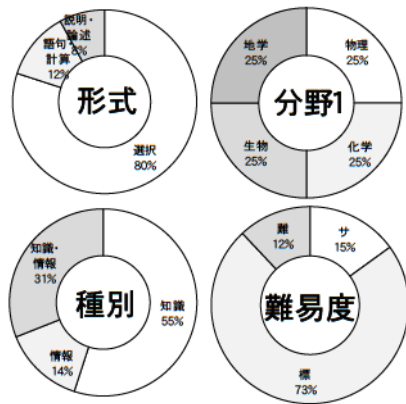
難易度 8~10 正答率の目安~40%
多くの受験生が解けません。難問高校以外ではあまり影響はありません（もちろん、難問はここが勝負）。
時にはパスする勇気も！

■難易度 11 以上は「超難問」です

判定の公式

$$\text{読解力レベル} + \text{思考力レベル} + \text{表現力レベル} = \text{難易度} \rightarrow \text{判定}$$

設問のバランス



総評と特徴のまとめ

- ・大設問の構成に変化はなし。昨年よりも取り組みやすい問題
- ・大設問4までは記号問題。原理原則、情報処理、仮説検証の問題などさまざまなタイプの問題
 →「選択問題だ」と甘く見ると痛い目にあう
- ・大設問5以降の問題では、実験方法と考察、仮説に対する検証と考察について問われる
 →暗記ではなく、実験観察について考察する能力が試される
- ・小設問ごとのつながりは弱い
 →「得意な分野」「自信があるところ」から始めるのが基本

傾向と対策

神奈川県 2017年度 一般 理科

大設問は8問で昨年と変わっていない。前半4つが一問一答型、後半4つが実験・観察からの設問という点も変化はない。一問一答型の問題は、パターンが豊富である。例えば、大設問1・アや大設問2・イは、現象に対する原理原則の理解を問う問題、大設問3・アは、知識不要で情報を処理するパズルの問題、大設問4・イは知識を土台にした情報処理の問題である。昨年よりも解きやすくなっているが、知識を詰めこむだけでは解けない問題であるため、選択問題といえども一筋縄ではいかない。理科現象が「なぜ起こる」のか、説明できるようにしておく。

後半の設問は、仮説を検証するための実験をもとに、結果を考察してさらに掘り下げる大設問5～7と、日常生活の問題をもとに構成される大設問8にわけられる。大設問5～7は「実験の方法」→「実験の結果」→「実験の考察」→「考察からの発展」という流れで構成され、方法や考察について、さまざまな角度から深く掘り下げるところに特徴と難しさがある。大設問8は、数学との教科横断型問題ととらえることができ、論理的に考えることや、図形のイメージを必要とすることに特徴がある。

高得点をとるのに必要なことは、行う実験についての理解である。「なぜこの実験をするか」「実験の方法・注意点は何か」「結果はどうなり、何がわかるのか」という3つの点について、教科書に載っている実験をまとめよう。また、大設問8のような、他教科との横断型問題ととれるものにも意識を向ける必要がある。2014年以降の過去問や、他県の入試問題を解いて、いろいろな方向からの出題に慣れよう。

全設問の分析と難易度一覧

連番	大設問	分野1	小設問	分野2	形式	種別	読解	思考	表現	難易度	判定	配点	正答率	内容	備考
1	1	物理	ア	電流と磁界	選択	知識・情報	2	3	1	6	標	3	65.6	真空放電管に電圧を加えて現れた光る線について考えられることを選択	原理原則
2	1	物理	イ	物体の運動	選択	知識	2	3	1	6	標	3	45.7	物体Aにはたらく力を表したものを選択	ひっかけが面白い・注意
3	1	物理	ウ	音	選択	知識	2	2	1	5	標	3	59.8	ことじの位置を変えずに基準の音と同じ高さの音を出す方法を選択	
4	2	化学	ア	気体の性質	選択	知識	1	3	1	5	標	3	37.8	4種類の気体のうち正しく述べたものを選択	
5	2	化学	イ	物体の状態	選択	知識	2	2	1	5	標	3	60.4	水についての正しい記述を選択	
6	2	化学	ウ	水溶液とイオン	選択	知識	2	2	1	5	標	3	55.6	水酸化ナトリウム水溶液をしみこませたろ紙に電圧を加えたときのトマス紙の様子を選択	原理原則
7	3	生物	ア	植物の分類	選択	情報	2	3	1	6	標	3	37.7	ランの花のつくりについて考えられることを選択	情報処理・パズル型問題
8	3	生物	イ	生物の成長とふえ方	選択	知識	2	2	1	5	標	3	48.1	発生の過程で1つの細胞に含まれる染色体数の説明のうち正しいものを選択	
9	3	生物	ウ	ヒトのからだのつくり	選択	知識	2	2	1	5	標	3	24.4	ヒトの手が熱いものに触れたときの刺激の受けとり方についての文章の空欄を補充	3つの空欄の組み合わせ選択
10	4	地学	ア	太陽系の天体	選択	知識	1	2	1	4	サ	3	57.6	太陽系の惑星の説明に当てはまるものの組み合わせを選択	2つの組み合わせ選択
11	4	地学	イ	天体の動き	選択	知識	2	2	1	5	標	3	32.8	満月の日から一週間後の月の南中時刻と見え方の組み合わせを選択	
12	4	地学	ウ	気象観測	選択	情報	3	2	1	6	標	3	37.8	実験からわかる空気体積と温度の関係についての仮説を選択	仮説検証
13	5	物理	ア	物体の運動	選択	知識・情報	2	2	1	5	標	4	30.1	糸を引いているときの台車の運動の様子を選択	テープの長さ読み取り・情報処理
14	5	物理	イ	物体の運動	計算記述	知識・情報	2	2	3	7	標	4	58.4	テープが示す区間の台車の平均の速さを計算	情報処理・速さ計算
15	5	物理	ウ	物体の運動	選択	知識	3	2	1	6	標	4	28.1	糸をはなした瞬間のテープの場所と糸をはなしたあとの台車の運動についての説明を選択	組み合わせを選択
16	5	物理	エ	力学的エネルギー	説明・小	知識・情報	2	3	3	8	難	4	16.5	2つの実験の糸を離れた瞬間の台車の速さの考察の空欄を埋める	実験結果の考察・原理原則
17	6	化学	ア	酸化と還元	選択	知識	1	1	1	3	サ	4	71.2	反応が進むにつれて試験管内の物質の色がどう変化するか選択	
18	6	化学	イ	酸化と還元	計算記述	知識・情報	2	2	3	7	標	4	16.9	グラフより酸化銅と炭素粉末の混合物が反応して発生する気体の質量を計算	情報処理
19	6	化学	ウ	酸化と還元	選択	知識	2	3	1	6	標	4	31.0	酸化銅の質量や炭素粉末の質量を増やしたときの反応後の銅の質量の変化を選択	組み合わせを選択・原理原則・実験の考察
20	6	化学	エ	酸化と還元	選択	知識	2	3	1	6	標	4	68.0	炭素粉末を水素に変えて同じ実験を行ったときの化学変化のモデルを選択	完善・モデル図・仮説検証
21	7	生物	ア	食物連鎖	選択	知識	2	3	1	6	標	4	54.0	実験のデンプンのりが自然界ではどのような有機物に相当するかを選択	原理原則・仮説検証
22	7	生物	イ	食物連鎖	説明・小	知識	3	3	3	9	難	4	17.9	デンプンのりの分解が微生物によるものだとと言える実験の結果を説明	仮説検証・実験の考察
23	7	生物	ウ	食物連鎖	選択	知識・情報	2	3	1	6	標	4	45.4	デンプンのりを分解した原因が微生物か土の中の鉱物かを判断した説明文を選択	仮説検証・実験の考察
24	7	生物	エ	食物連鎖	選択	情報	2	3	1	6	標	4	79.3	ペトリ皿の3種類の微生物の観察結果からわかることを選択	仮説検証・実験の考察
25	8	地学	ア	地震	選択	知識	1	1	1	3	サ	4	67.1	日本付近で発生する地震についての説明で誤っているものを選択	
26	8	地学	イ	地震	選択	知識・情報	1	2	1	4	サ	4	81.0	Kさんの家の震度を推定し選択	情報処理・やや図形的
27	8	地学	ウ	地震	計算記述	知識・情報	2	3	3	8	難	4	28.7	緊急地震速報が発令されてからKさんの家に主要動がくるまでの時間を計算	情報処理
28	8	地学	エ	地震	選択	情報	3	3	1	7	標	4	40.8	地図と柱状図より3つの地点の間にある断層について述べた文を選択	図形パズルの要素

資料の見方・各項目の解説

この資料の特徴は、入試問題の全設問を、タイプ別に分類し、さらに難易度を数値化し、「サービス問題」「標準問題」「難問」の3ランクに分類していることです。右のページの表を見れば、この教科の問題が、どのような内容、レベルで作られているかがわかります。また、かんたんな学習アドバイスも書かれています。この下には、資料の作られ方と見方をまとめました。ぜひ活用してください。

■連番

設問の「通し番号」で、原則として点がつけられる単位を「1設問」として数えます。

■大設問

いわゆる「大問」・漢数字だったりローマ数字だったりしますが、この資料では原則、算用数字で表示。

■分野1

社会の分野のおおまかな分類（地理・歴史・公民）。主に大設問単位で設定された分け方。

■小設問

「連番」に対応する番号です。

■分野2

分野1よりも具体的な分類・設問そのものの形式・内容を表示。

■形式

- 名称左の数値1~4は、下の表の「表現力」の難易度です。
- 1 選択** いわゆる選択問題。語順整序など選択が特に多いものは、選択であっても語句（語句記述）にする場合も。
 - 2 語句** 語句単位で記述する設問。
 - 2 計算** 一般的な計算問題（数学）。
 - 3 計算記述** 計算過程も含めた一定以上の記述（数学・理科）。
 - 3 作図** 図やグラフを作成する問題。
 - 3 説明・小** 与えられた素材や情報をもとに説明する問題。「小」は、解答の分量が小さいもの、構成力が不要でないもの。
 - 3 論述・小** 意見を述べるもの。「小」は、解答の分量が小さいもの、「構成力」が必要でないもの。
 - 4 説明・大** 与えられた素材や情報をもとに説明する問題。「大」は分量が多いまたは、段落レベルの構成力が必要になるもの。
 - 4 論述・大** 意見を述べるもの。「大」は分量が多いまたは、段落レベルの構成力が必要になるもの。
 - 4 証明** 証明の全過程（ほぼ全て）を記述するもの・穴埋めは2または3（数学）。

■種別

問題を「どのような頭脳の働きを求めるか」によって種類分けしています。

知識 語句などの知識があればスタートラインに解答できる設問です。

情報 与えられた資料などの情報から判断し回答すれば良い問題です。一般常識以上の知識が不要なタイプです。

知識・情報 知識を活用しつつ、情報処理や判断を行うタイプです。教科横断的な問題になる場合もあります。

問題を読む

考える

書く

読解力
設問を読み内容や指示を理解する

思考力
指示に従い作業や判断を行う

表現力
指示に従い正確な解答を書く

問題難易度の判定方法です。問題を上の図のように、3ブロックに分けます。「読解：情報を入力」「思考：内容を考え判断」「表現：正しい解答を書く」です。読むべき内容は難しいが、選択式でしかも、解答がすぐ区別できるようになっていれば、主に「読解力」における難問です。反対に、わかりやすく書かれていても、意見と具体例をそろえて長い文章で表現しなければならないとなると、「表現力」の難問です。このような性格を数値化しています。そして、設問の「難易度」は、読解力・思考力・表現力の3つの数値を合計して判定します。この計算をかんたんに表したのが、下の「判定の公式」です。

連番	大設問	分野1	小設問	分野2	形式	種別	読解力	思考力	表現力	難易度	判定	配点	正答率	内容	備考
1	2	歴史	1	近現代	説明・小	知識・情報	2	3	3	8	難	3	18.8	19世紀後半に綿糸の生産が拡大し輸出量が増えた理由を説明	資料読取り+知識+説明
2	2	歴史	2	近現代	選択	知識	1	2	1	4	サ	2	80.3	高度成長期経済のこのように正しい文を減	
3	3	公民	1	地方の政治と自治	選択	知識	1	2	1	4	サ	2	72.5	公共料金などが国や地方公共団体の認可が必要である理由を選択	
4	3	公民	3	現代社会と私たちの生活	説明・小	情報	3	2	3	8	難	3	34.4	バス路線存続の理由を公正の観点から説明	資料読取り+説明
5	3	公民	4(1)	地方の政治と自治	説明・小	情報	2	2	3	7	標	3	44.3	グラフからバス利用者が増やすべきだと判断した理由を説明	資料読取り+説明
6	3	公民	4(2)	地方の政治と自治	説明・小	情報	2	2	3	7	標	2	50.0	アンケート結果から市長がバスを利用しない理由を説明	資料読取り+説明

■読解力レベル

- 問題に書かれた内容の難しさの表示です。内容が難しいほど数値が大きくなります。
- 1 常識レベル** 中学生なら知っているべき
 - 2 入試標準レベル** 多くは過去に何度か経験がある
 - 3 入試難問レベル** 標準レベルの受験生がこずる
 - 4 超高校入試レベル** 特別な問題でない限り見ない
 - 5 特別レベル** ほとんどの中学生にとって意味不明

■思考力のレベル

- 読みとった情報について考え、判断する難易度です。設問と解答がそのまま対応する（単純な語句など）一問一答型は1、計算して解答を探したりする場合は2……のように「手順」の長さを大まかに数値化したものです。大きいほど手間が多く、ミスする可能性が高まります。
- 1 一問一答** 「単純な語句」的な設問
 - 2 シンプル** たとえば式にしてみると時代を特定（1）十年表から判断（1）= 2
 - 3 手間がかかる** たとえば式にしてみると時代を特定（1）十年表から判断（1）+ 原因を推理して説明（1）= 3
 - 4 複雑** 3に対し「まぎらわしい」「作業が複雑」などの要素や手間が加わったもの
 - 5 特別** さらに何段階もの手間をかけさせる設問
 - 6 例外** 大人でもミスするポイントが何箇所もある複雑ぼう大な難物

■表現力のレベル

- 解答形式による手間の度合いを表します。「形式」項目をそのまま数値化しました。
- 1 選択** いわゆる選択問題・語順整序のような選択肢がたいへん多くなるものは除外する場合も
 - 2 語句** 語句単位で記述する設問
 - 2 計算** 一般的な計算問題（数学）
 - 3 計算記述** 計算過程も含めた一定以上の記述（数学・理科）
 - 3 作図** 図やグラフを作成する問題。
 - 3 説明・小** 与えられた素材や情報をもとに説明する問題。「小」は、解答の分量が小さいもの、構成力が不要でないもの
 - 3 論述・小** 意見を述べるもの。「小」は、解答の分量が小さいもの、「構成力」が必要でないもの
 - 4 説明・大** 与えられた素材や情報をもとに説明する問題。「大」は分量が多いまたは、段落レベルの構成力が必要になるもの
 - 4 論述・大** 意見を述べるもの。「大」は分量が多いまたは、段落レベルの構成力が必要になるもの
 - 4 証明** 証明の全過程（ほぼ全て）を記述するもの・穴埋めは2または3（数学）

サービス問題

難易度 3~4 正答率の目安 70%~
誰でも解けるように用意されたものです。ここでミスをしたら致命的です。どうあっても確実にゲットしたい問題です。

標準問題

難易度 5~7 正答率の目安 40%~70%
入試の中心的な問題群です。これを確実にとれたかどうかは難問より重要で、合否にもっとも大きく影響します。

難問

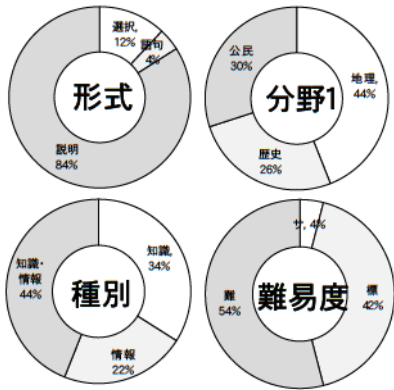
難易度 8~10 正答率の目安 40%
多くの受験生が解けません。難問高校以外ではあまり影響はありません（もちろん、難問はここが勝負）。時にはパスする勇気も！

■難易度 11 以上は「超難問」です

判定の公式

$$\text{読解力レベル} + \text{思考力レベル} + \text{表現力レベル} = \text{難易度} \rightarrow \text{判定}$$

設問のバランス



総評と特徴のまとめ

- ・説明記述重視、活用型重視
 →習ったことを「活用して説明する」問題
 →歴史分野では知識のみで解ける問題は2問のみ
- ・説明記述問題は昨年度より増加、過去最多の17問
 →全設問の84%を占め、全国最高レベル
 (2015年度:8問約35%、2016年度:13問約68%)
 ・一問一答型のパターン化された問題は少ない
 ・試験時間内に推理し解決する情報処理力を要求
- ・語句問題は定期テストレベルのものが中心
 →取りこぼし厳禁

傾向と対策

広島県 2017年度 一般 社会

昨年度の傾向を踏まえ「説明記述重視」「情報活用重視」の出題。今年の入試では、県教委の発表した正答例の字数が昨年度より約1.2倍(約500字→約630字)も増えている。制限時間内にこれだけの分量を説明させる入試は全国的にも珍しい。問題も一問一答型の説明記述は少なく、資料と関連づけて説明させるものがほとんど。したがって質問に対して資料を活用し、的確に表現できるかどうかで得点差がつく。

「情報活用型」の例は大設問4-2。過去の入試であれば、地形図から読み取った文を選択するのが一般的な問い方だった。しかし今年の問題は、地点Xが洪水の被害が想定される理由を説明させるものだ。地点Xが河川の近くであり、河川との等高線の差が小さいことに着目させ説明させる——このような複数の思考を経て解答させるのが情報活用型の特徴。したがって、習ったことを発展させ、「この場合だとどうなる(またはどうなった)と考えられるか」を「説明できる」レベルを学習の目標にするとよい。

対策として、実際に過去問以外にも他県の入試も参考になる。全国的にも情報活用型の説明問題は増えているので、積極的に挑戦して欲しい。その際には、①必ず「何を」「どのように」答えるのかを読み取る。②資料の数値や語句などで特徴のある箇所にもマークをし、分かったことをメモ書きし、答案にまとめる。最後に③実際に書いたら解答と照らしあわせて内容の過不足の有無を確認する。以上3点を意識して取り組むとよいだろう。

全設問の分析と難易度一覧

連番	大設問	分野1	小説問	分野2	形式	種別	読解	思考	表現	難易度	判定	配点	正答率	内容	備考
1	1	地理	1	世界の姿	選択	知識	2	1	1	4	サ	2	57.1	降水量の多いインドネシア・フィリピン・日本の共通点を選択	
2	1	地理	2	世界からみた日本の姿(地形)	説明・小	知識・情報	2	1	3	6	標	2	39.2	日本の河川の特徴を世界の川と比較して説明	資料・データ読取+パターン型記述
3	1	地理	3	世界からみた日本の姿(資源と産業)	説明・小	知識・情報	2	2	3	7	標	2	50.3	日本の一人当たりの年間取水量が多い理由を農業の特色にふれて説明	資料・データ読取
4	1	地理	4(1)	日本の諸地域	説明・小	知識	2	3	3	8	標	2	37.0	高松市の年間降水量が少ない理由を「山地」「季節風」の語句を用いて説明	パターン型記述
5	1	地理	4(2)	日本の諸地域	説明・小	情報	3	3	3	9	難	2	28.3	全国のため池に関する資料からでた疑問を「…の…のはなぜか」の形式で説明	資料・データ読取+活用型(仮説検証)
6	1	地理	5	世界からみた日本の姿(地形)	説明・大	知識・情報	3	3	3	9	難	3	21.4	(防災)都市部に地下雨水貯留施設が建設されている理由を説明	活用型
7	2	歴史	1	古代	選択	知識	2	2	1	5	標	2	47.5	太宰府の主な役割を選択	
8	2	歴史	2A	中世	説明・小	知識・情報	1	1	3	5	標	1	67.7	文中の空欄にあてはまる大名の城を守るための工夫を資料から説明	資料・データ読取+活用型
9	2	歴史	2B	中世	説明・小	知識	2	2	3	7	標	2	41.9	文中の空欄にあてはまる楽市楽座の政策の内容を説明	パターン型記述
10	2	歴史	3	近世	説明・大	知識・情報	4	3	3	10	難	3	19.7	酒田の町が発展した理由を資料を用いて説明	資料・データ読取+活用型
11	2	歴史	4(1)	近現代	説明・小	知識・情報	3	4	3	10	難	2	9.7	北海道の鉄道が国内で比較的早い時期に建設された理由を資料をもとに説明	資料・データ読取+活用型
12	2	歴史	4(2)	近現代	説明・小	情報	2	4	3	9	難	3	19.5	高度経済成長期に船舶の貨物輸送が増加した理由を資料をもとに説明	資料・データ読取+活用型
13	3	公民	1	国の政治のしくみ	説明・小	知識	2	2	3	7	標	3	12.4	参議院議員選挙の実施年を選択し、その記号を選択した理由を「任期」を用いて説明	パターン型記述+完全解答
14	3	公民	2(1)	国の政治のしくみ	説明・大	情報	2	3	3	8	難	3	16.8	表とグラフから20~30歳代の意見が政治に反映されにくい理由を説明	資料・データ読取+活用型
15	3	公民	2(2)	価格の動きと金融	説明・大	知識・情報	2	4	3	9	難	3	8.3	消費税の引き上げが景気に影響を与える理由を「家計」「企業」を用いて説明	活用型+時事問題
16	3	公民	3	国の政治のしくみ	選択	知識	2	2	1	5	標	2	61.5	国民投票の対象になることから選択	
17	3	公民	4	国の政治のしくみ	説明・小	知識	2	3	3	8	難	2	12.5	(効率と公正)一票の格差について公正の観点から説明	パターン型記述
18	4	公民	1A	地方の政治と自治	語句	知識	2	1	2	5	標	1	49.0	地方財政に関する会話文の空欄にあてはまる語句を解答	
19	4	公民	1B	地方の政治と自治	語句	知識	2	1	2	5	標	1	52.8	地方財政に関する会話文の空欄にあてはまる語句を解答	
20	4	地理	2	身近な地域の調査	説明・小	知識・情報	2	3	3	8	難	3	16.1	(防災)洪水の被害が想定される理由を地形図をもとに説明	資料・データ読取+活用型
21	4	地理	3(1)	日本の諸地域	説明・小	知識・情報	2	1	3	6	標	3	40.0	岐阜県の伝統的住居が雪害から守るための工夫を説明	資料・データ読取+パターン型記述
22	4	地理	3(2)	地理総合	説明・大	情報	4	4	3	11	難	3	11.2	岡山藩が産業の発達と洪水の防止を両立させるために行った取り組みを資料をもとに説明	資料・データ読取+活用型